

保管; 3 exs., 同, 19. IV. 2020, 伊藤採集, 保管.

#### 4) ヒメミスジホソカタムシ *Leptoglyphus sasaokai* Narukawa, 2019

本種は宮崎県および鹿児島県の屋久島で採集された個体をもとに記載された種であり (Narukawa, 2019), 体長 1.5 mm ほどで, 日本産同科最小の種である. 本種は触角第 1 節に顕著な毛束を有する, 上翅間室に点刻を有さないなどの特徴から他種と容易に区別することができる (Aoki, 2011; Narukawa, 2019).

以下は, 鹿児島県本土および奄美大島初記録となる.

- 1 ex. (図 4), 鹿児島県肝属郡肝付町後田 甫与志岳麓, 16. VIII. 2019, 中野採集, 保管; 1 ex., 同, 19. IV. 2020, 伊藤採集, 保管; 1 ex., 鹿児島県大島郡 (奄美大島) 住用町 タカバチ山, 6. X. 2017, 西真弘採集, 秋田勝己保管 (標本識別番号: KAC 139789).

#### 引用文献

- Aoki, J., 2011. Four species of the genus *Leptoglyphus* from Japan (Coleoptera, Bothrididae). Elytra, Tokyo, New Series, 1 (2): 263–271.
- 青木淳一, 2017. いわゆるホソカタムシ類の所属変更と新しい種リスト. さやばねニューシリーズ, (28): 1–9.
- 青木淳一・平野幸彦, 2008. ミスジホソカタムシ属の日本未記録種. ねじればね, (123): 1–3.
- 城戸克弥, 2004. 九州におけるトサヒメテントウとイノウエホソカタムシの記録. 甲虫ニュース, (145): 20.
- 城戸克弥, 2020. 丸山式 FIT で得られた筑紫野市大根地山の甲虫類 (1). KORASANA, (94): 77–90.
- 久保田義則, 2010. ホソカタムシの屋久島新記録種 4 種. 月刊むし, (474): 43–44.
- 久保田義則, 2012. 屋久島のホソカタムシ. SATSUMA, 62 (148): 203–217.
- Lee, S.-G., J.-W. Nam, & J. Lim, 2017. A taxonomic review of the family Bothrididae Erichson (Coleoptera: Coccinelloidea) in Korea represented by ectoparasites of wood-boring insects. Journal of Asia-Pacific Biodiversity, 10: 208–211.
- Mcelrath T. C., R. A. Andrew, & J. V. Mchugh, 2016. *Antibothrus morimotoi* Sasaji, an Old World cocoon-forming beetle (Coleoptera: Coccinelloidea: Bothrididae) newly established in North America. Zootaxa, 4154 (3): 323–330.
- 中野文尊・緒方裕大・大野友豪, 2019. 島嶼におけるホソミスジホソカタムシの記録. 月刊むし, (581): 63.
- 生川展行, 2018. 宮崎県綾町で採集した甲虫の記録. タテハモドキ, 55: 9–12.
- Narukawa N., 2019. A new species of the genus *Leptoglyphus* (Coleoptera: Bothrididae) from Japan. Japanese Journal of systematic Entomology, 25 (2): 163–164.
- 大塚健之・角島幸二, 2012. 広島県のホソカタムシ類の記録. 月刊むし, (502): 8–9.
- Sasaji H., 1997. A new species of the genus *Antibothrus* (Coleoptera, Bothrididae) from Japan, with notes on the Japanese Bothridinae. Esakia, (37): 111–116.
- 笹岡康則, 2014. 宮崎県内で採集した甲虫. タテハモドキ, (50): 19–27.

笹岡康則, 2018. 2018 年綾町照葉樹林で確認された甲虫類. タテハモドキ, (55): 1–8.

堤内雄二, 2014. 大分県のホソカタムシ. 二豊のむし, (52): 42–49.

(中野文尊 501–3154 岐阜市岩田東 3–200)  
(伊藤玲央 870–1141 大分市下宗方 1362–7)

#### 【短報】対馬におけるミユキシジミガムシの記録

ミユキシジミガムシ *Laccobius (Laccobius) inopinus* Gentili, 1980 は, 国内において本州, 四国, 九州および屋久島に分布している (上手, 2007; 中島ほか, 2020). 池沼周辺の湿地帯, 休耕田, 放棄水田など比較的浅い水域を好むが, 開発や乾燥化などの影響で生息環境が減少し, 環境省版レッドデータブックでは準絶滅危惧 (NT) として掲載されている (環境省 (編), 2015). 筆者は対馬において本種を採集しているので, ここに記録しておきたい.



図 1. 対馬産ミユキシジミガムシ.

1 ♂, 長崎県対馬市上県町志多留田ノ浜, 9. VII. 2018, 上手雄貴・上手奈美採集, 上手雄貴保管 (図 1). 水田地帯の一角にあった湿地において採集した.

#### 引用文献

- 上手雄貴, 2007. 日本産シジミガムシ属. 昆虫と自然, 42 (2): 12–16.
- 環境省 (編), 2015. Red Data Book 2014, 5 昆虫類 日本の絶滅のおそれのある野生生物. xxxix + 509 pp. ぎょうせい, 東京.
- 中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版, 東京.
- (上手雄貴 463–0003 名古屋市守山区大字下志段味字穴ヶ洞 2266 番 132 名古屋市衛生研究所)  
(上手奈美 500–8381 岐阜市市橋 4–6–24)